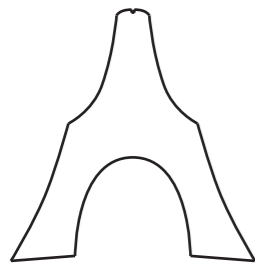


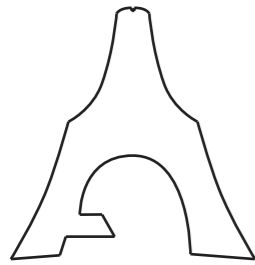
# 箏柱についての簡単な解説

## 基本的な箏柱ワンセットの内容



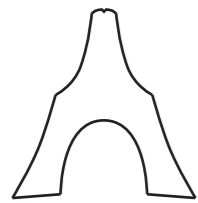
箏柱（ことじ） 12個

実際は箏の文字を略されて柱（じ）または御柱（おじ）と呼ばれることが多い。一から為の絃にかける。



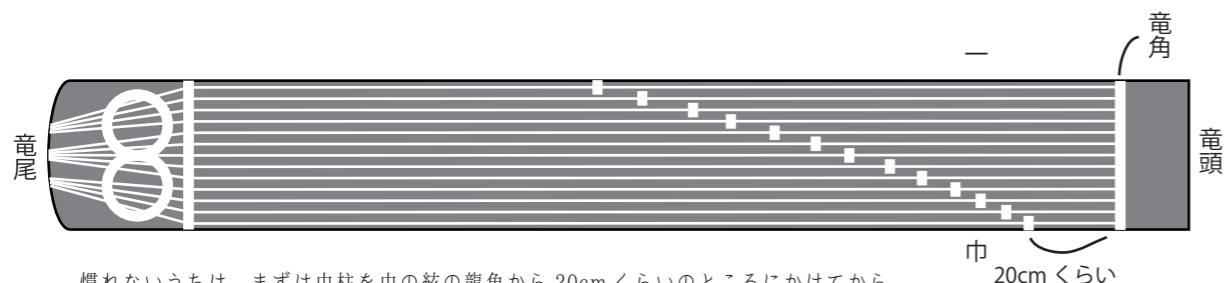
巾柱（きんじ） 1個

巾の絃にかける箏柱。

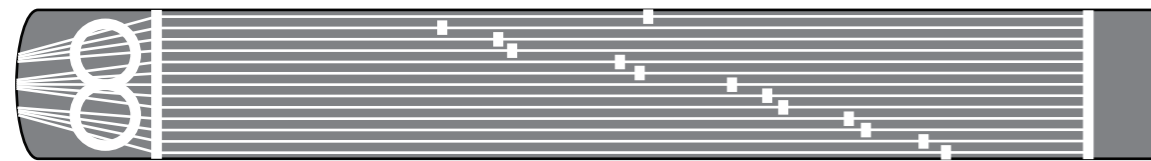


小柱（こじ） 1個

低い音が出ない時などに使用する補助的な箏柱。使わない場合が多い。無くさないように注意！



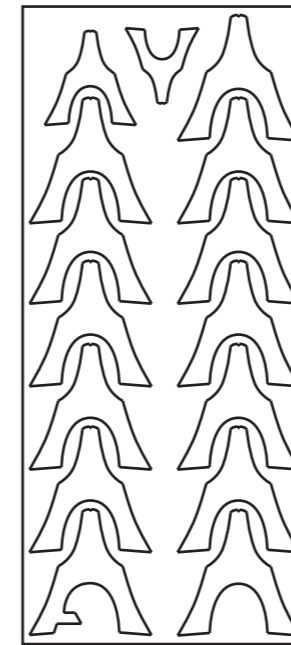
慣れないうちは、まずは巾柱を巾の絃の龍角から20cm くらいのところにかけてから、《巾の絃から一の絃》に向かって左斜めに3cm くらい間をとって柱をかけてください。



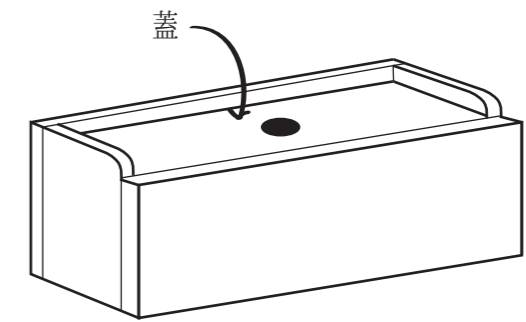
慣れてきたらあらかじめ例えば吉越平調子がとりやすい位置に、《一の絃から巾の絃》にむかって箏柱をかけていくとよいです。

箏柱はどちらの絃からかけたらよいですか？という質問をよくいただくのですが、そのときの事情によって異なります。箏に全然慣れていないような状態であればまずは巾柱を間違えずにかけて欲しいということが優先されるので、よって巾の絃からかけるように言いますが、慣れてきたら一の絃からあらかじめ平調子などがとりやすい位置にかけていくように指示内容が変わります。…というわけで、最終的には一の絃から箏柱をかけるのがよい、ということになりますが、その過程で逆の指示が出ることもある、というお話でした。

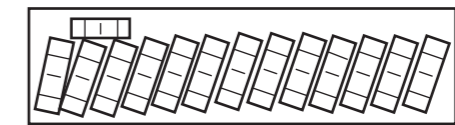
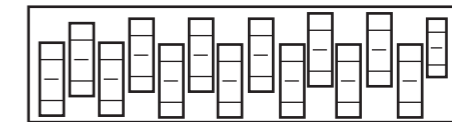
## 箏柱のしまい方



紙製の柱箱



桐製の柱箱



上から見たしまっており状態

箏柱は購入時には紙製の柱箱にはいっており、小柱よりさらに小さい柱がもともと入っていますが、だいたいききにいちばんちいさい柱は別の入れ物などにまとめていれられて無くなっている状態の場合が多いです。そのため一番ちいさい柱ははじめにはいってなければ無くても気にせず、箏柱12個+巾柱1個+小柱1個を形通りにはめこみしめてください。

また、桐製の柱箱がある際はそちらにしまってもよいと思います。いずれにせよ、箏柱12個+巾柱1個、小柱1個の組み合わせをワンセットとしてしまうとよいでしょう。箏柱の形状によって効率がわるいと入りきらなかったりするので、上から見たしまった状態の図を参考にワンセット入れてみてください。この桐製の柱箱は琴台にもなります。



また、三段柱（さんだんじ）という補助的な箏柱もあります。調絃が小柱でも立たない低い音を出すときに利用します。この箏柱は基本セットに入っていない別売りの柱です。ひとつくらい所有しておくといろいろと便利な箏柱です。